

九州大学総合研究 博物館ニュース

March 2011 No.15

松隈明彦館長の任期がこの3月いっぱいであり、 新館長に芸術工学研究院の竹田仰教授が就任します

平成21年4月1日から2年間、総合研究博物館の館長をさせていただきましたが、3月31日をもって館長を退任いたします。この間の皆様のご協力を心から感謝いたします。

館長を退任するに当たり心残りなことは、事務組織のせい弱さと、博物館が未だ自前の建物を持たないことです。九州大学は昆虫標本、考古学資料など760万点をこえる学術資料を学内に有し、資料の数と質の高さは他大学の追随を許しません。全国1の規模を誇る学術資料が教育や研究に活用されるためには、資料の整理と適切な保管、情報の公開が欠かせません。大学博物館が、学内各部局に散在する学術資料を、各部局と連携して一元的に管理し、教育・研究への活用を支援するためには、十分な面積の資料庫、展示室、研究室を持った建物を学内に作る必要があります。

全国の大学博物館は、概算要求による博物館建物の建設か、学内の空いた建物を改装して博物館とし

て利用する方法で建物の獲得を行っています。九州大学はこれからも当分伊都キャンパスへの移転を中心に概算要求が進むために、博物館の建物を概算要求の上位においてもらうことは現時点では難しい状況です。工学研究院、比較社会文化学研究院が既に伊都キャンパスへ移転し、理学研究院が移転の準備を進めています。新キャンパスの建物の設計では、多くの部局で資料庫の計画がなく、学術資料が移転跡地に放置され、利用不能となる危険性があります。このため、多くの部局の協力の下に大学博物館が、新キャンパスに建設されることが必要です。場合によっては、移転の予定が無いキャンパスに一時的に建物を確保して、学術資料を収蔵、整理し、公開・活用することも考える必要があります。

館長退任後も、そのための準備を進めていきたい所存です。今後も、大学博物館へ対する皆様の変わらぬご支援・ご協力を心からお願いいたします。

九州大学総合研究博物館館長 松隈 明彦

東日本大震災において被災された皆様へ

このたびの未曾有の災害において亡くなられた方々にお悔やみを申し上げますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。微力ながら大学博物館としてできることに、今後取り組んで参りたいと考えております。一日も早く皆様に安全で健康な日常が取り戻り、被災地が復興されることを心よりお祈り申し上げます。

九州大学総合研究博物館教職員一同

